別紙様式

令和２年度　学校自己評価表（計画段階・実施段階）

福岡県立宗像中学校長

学校運営計画(4月)			評価(3月)
学校教育目標	主体性を持って行動し、夢に向かって意欲的にチャレンジする宗中生の育成		B
学校運営方針	①校訓「質実剛健　自彊不息」を体現するため、学習活動・学校行事等を通して協働性や探究力、コミュニケーション力を伸ばし、生徒の主体性を重視した教育活動を推進する。 ②6カ年を見据えた中高一貫教育充実のため、職員間の協働性と課題解決に向けた実行力を高め、柔軟性を持って新たな教育活動を模索・実践する。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
併設中学校として、6学年完成の年に向けての準備を整えることができた。さらに6年間を見通した進路指導の系統性を持たせて、より一層の充実を図るために教育課程のチェックと改善を行い、学力の上位層と下位層の指導の在り方を今一度再考して対応していく必要がある。	宗像中学としての自彊不息の学習指導と授業改善	生徒に高校に繋がる学習方法（予習・授業中・復習）を体得させ、課題意識を持って自ら学習に取り組む姿勢、意欲的に物事を探究する姿勢を育成する。	
		生徒の主体性重視と生徒の実態への対応を踏まえ、「わかる授業」の展開と的確なフォローにより、生徒個々の学習意欲を喚起させる。	
	生徒指導と進路指導の一体的指導	自己指導力育成のために「夢に向かって」を継続的・効果的に活用し、自らの将来の目標実現に向けた実践力を育成する。	
		協働性、探究力、コミュニケーション力の育成や、自己の役割に対する責任感、リーダーシップの醸成につながるように、学校行事等の在り方について点検・改善を図る。	
		生徒の主体性に重点を置いた学校行事・部活動等を通して、生徒の自尊心と愛校心を高めるとともに、意欲的に物事にチャレンジする姿勢を育成する。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
教育推進領域	教育計画部	本校の教育目標を実現するための学習指導について支援する。	生徒に高校に繋がる学習方法（予習・授業中・復習）を体得させる。	B	B	B	・探究活動がより充実するように授業計画を検討し、円滑に進むように支援する。 ・生徒各自が学力を向上できるように学習方法を体得させる等方策を検討する。 ・中高連携を意識し、PTAや他の分掌とより密に連携をとる。 ・生徒の学校生活の様子を説明会の中で発表することによって、よりよく本校の魅力が伝わるように工夫する。
			課題意識を持って自ら学習に取り組む姿勢、意欲的に物事を探究する姿勢を育成する。	B			
		他の分掌と連携し、生徒の学力向上を支援する。	学年や進路指導部と連携し、生徒の探究活動が充実するよう支援する。	A	B		
			キャリアパスポートと夢に向かってを活用することで、生徒の目的意識を高め、学力向上への取り組む姿勢を育成する。	B			
	企画広報部	生徒の主体性・意欲の醸成につながるような式典やPTAの活動を実施する。	中高が共に行う式典やPTA活動を円滑に行うことができるよう他分掌と連携する。	B	B	B	
			PTAと連携し、魅力ある活動を展開する。	B			
		宗像中学校の魅力を発信する効果的な広報活動を展開する。	ホームページの更新をこまめに行い、その内容を充実させる。	A	A		
			学校説明会や学校案内等で、本校の魅力がより伝わるように工夫する。	A			
生徒支援領域	生徒育成部	基本的な生活習慣の確立を図る指導を行う。	明るく元気な挨拶ができる生徒を育成する。	C	B	B	・元気な挨拶ができる雰囲気づくりをする。 ・社会生活を送るうえで必要なマナーの理解と実践力をを身につけさせる。 ・新型コロナ対策をより効果があるものとなるよう工夫を続ける。 ・　配慮を要する生徒の支援計画を職員全体でどのように共有するかを考える。 ・配慮を要する生徒の指導方法、SCや専門機関との連携をどのようにしていく
			時間を守り、美化意識を持つ生徒を育成する。	A			
		規範意識の醸成を図る指導を行う。	思いやりを持って他人と関わることができる生徒を育成する。	B	B		
			提出物を含めた約束を守ることの大切さを学ばせる。	B			
	保健環境部	健康への意識を持った生徒を育成し、配慮を要する生徒へ速やかに対応する。	全生徒が健康の維持促進に取り組むことができるよう委員会を中心に活動を行う。	B	B	B	
			ケース会やいじめ・不登校対策委員会でSCに専門的アドバイスを求め、職員全体で配慮を要する生徒に対応する。	A			
		校内美化や健康管理に対し、高い意識を持って取り組む生徒を育成する。	美化コンクールを効果的に活用し、高い意識で清掃に取り組ませる。	B	B		
			定期的に保健・美化各委員会を開催し、積極的な広報活動により周知、徹底を図る。	B			

進路支援領域	進路指導部	生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな進路指導を実践する。	「夢に向かって」の効果的な活用について担任団で情報を共有する。	B	B	B	・他の中高一貫校の成績上位者との交流が可能ならば、合同学習会や統一試験を実施したい。（進路） ・修学旅行が3年次に変更になったため、年間計画を立て見直す。（キャリア） ・図書館と連携しながら、委員会を主体として広報活動を行う。（図書）
			外部試験の事前・事後の指導法を担任団で共有し生徒に還元する。	B			
		キャリアに関する学習を主体的に行い、進路意欲の高揚を図る。	授業で学ぶことの面白さを実感し、主体的に取り組むことができる表現活動（発表活動）を行う。	A	B		
			地域や高校等との連携事業を積極的に行い、社会で役立つ幅広い教養と高い知識を養う。	B			
	図書部	生徒の主体的な学びを支援する「学習情報センター」としての機能を充実させる。	各教科と連携を取り、生徒の学びを拡大深化させるための書籍の収集に努める。	A	A	B	
			図書館にある書籍・情報を積極的に紹介・案内する工夫をする。	B			
		文化・図書委員の主体的な活動を促す取り組みをし、「読書センター」としての機能を強化する。	有意義な図書館行事にするために、文化・図書委員を主体とした広報活動を活性化する。	B	B		
			生徒の活動や成果物を積極的に発表、活用し、主体的な読書活動を奨励する。	B			
学年領域	第1学年	基本的生活習慣の確立を図り、集団のルールを守り行動する態度を育成する。	高い規範意識を持ち、社会的マナーや礼儀をわきまえた生徒の育成を目指す。	B	B	B	・不登校の生徒や困り感の多い生徒への対応をチームとして行う。 ・学力差がすでに開いてきているため、計画的、組織的に指導を行う。
			「夢に向かって」を活用することで、基本的生活習慣の確立を図る。	B			
		主体的に活動することのできる資質能力を育成する。	体験活動や交流活動において、主体的に活動しようとする態度を育成する。	B	B		
			自ら課題を見つけ、協働活動を通して解決しようする態度を育成する。	B			
	第2学年	中堅学年として、主体的に行動する態度を育成する。	日々の生活や行事を通して規範意識を高め、他者を思いやる心を持つ生徒の育成を目指す。	B	B	B	・修学旅行成功に向けた諸準備と事前学習の充実を図る。 ・宗像高校進学に向け、学力格差是正のための指導を組織的に行う。
			企業及び職場体験を通して、社会の中で様々な課題に気づかせ自ら解決しようとする姿勢を養う。	B			
		将来の夢に向かって志を高く持ち、学習習慣の定着を図る。	調べ学習を通して、職業についての理解を深め大学につながる学習意欲を高める。	A	A		
			「夢に向かって」を活用し、学習習慣の定着を図る。	A			
	第3学年	好ましい人間関係の構築と主体的に行動する態度を育成する。	規範意識の高揚と思いやりの心を持ち行動できる生徒を育成する。	A	A	A	・生徒の実態に応じた学力向上のための指導方法を検討し、進路目標を設定できる生徒を育成する。 ・進学後の環境の変化に適応するため、中高での情報共有し、必要な生徒に対し適切な支援をする。
			学校のリーダーとして、協働性を高め自主的に行動ができる生徒を育成する。	A			
		進路目標の明確化と学習習慣のさらなる確立を図る。	面談や「夢に向かって」の有効活用を図り、進路目標を具体化させる。	B	B		
			生徒の実態への対応、組織的・継続的な個に応じた指導を行い、学力向上を図る。	B			
研修部		中高で連携を取り、職員の資質向上につながる研修を実施する。	中高で連携し、今日的な教育課題や生徒理解に関する研修を実施する。	B	B	B	・生徒の実態に応じた研修の実施すること。（LGBTQ、不登校支援、特別支援教育など） ・各教室に設置されたICT機器の効果的な活用などについて、職員間で情報を共有すること。
			生徒の交流活動の活性化を図るICT機器の活用を推進する。	A			
		主体的に学ぶ生徒を育成する授業実践のために、授業改善に取り組む。	授業公開を通して授業力の向上を図り、主体的・対話的で深い学びを充実させる。	B	B		
			教科内での研究協議の機会や時間を充実させ、職員の資質向上を図る。	A			
学校いじめ防止基本方針		全職員の共通理解の下、組織的にいじめを生まない学校風土作りを推進する。	個人面談・教育相談を定期的・計画的に行い関係職員で連携し課題解決に臨む。	A	A	A	相手の立場にたち、思いやりのある言動ができる生徒の育成を一層充実させる。
			定期的なアンケート等を実施し、日常的に生徒の行動の様子を把握する。	A			
		いじめ・不登校対策委員会で定期的に取組を検討・改善する。	校内研修により職員の共通理解を図り、スクールカウンセラー等専門家の意見を交え担任や職員全体への助言等を行うように努める。	A	A		